

福井県衛生環境研究センター活動報告 概要

発表演題名	福井県におけるA群ロタウイルスの分子疫学的解析
発表学会名	第 57 回北陸信越薬剤師学術大会
発表者名	小和田和誠（保健衛生部）
開催場所	金沢大学宝町キャンパス（石川県金沢市）
発表日	令和 7 年 2 月 23 日～24 日
発表内容	<p>A 群ロタウイルス (RVA) は、主に小児の患者が多い胃腸炎ウイルスである。2011 年にはワクチンの任意接種が始まり、2020 年には定期接種が開始されるなど、近年は特に RVA の感染症予防対策が重要視されていることから、福井県における RVA の流行状況について、分子疫学的解析を実施した。</p> <p>2012 年 4 月から 2024 年 3 月までの間に、福井県内で採取された検体の中で、RVA を検出した 94 検体を調査対象とした。RVA の VP4、VP6、VP7 領域について PCR を実施し、遺伝子型の同定を行った。</p> <p>VP7 領域 (G 型) について、検体採取年別の最多検出数をみると、年ごとに異なる傾向が見られた。比較的マイナーであった G8 は 2018 年以降に多くなっており、G8 の患者年齢は他と比べて 1 歳から 2 歳の割合が低く、年齢分布がやや異なっていた。</p> <p>VP6 領域 (I 型) については、2012 年に検出された G1 では I2 が多く、2016 年では I1 が多かったことから、2012 年と 2016 年は異なるタイプの RVA が流行した可能性が考えられた。また、VP7 領域と VP4 領域は同じであっても VP6 領域は異なる組換え体が福井県内でも流行していたことが明らかとなった。</p> <p>今後も RVA は遺伝子型を変化させながら流行する可能性が考えられるため、引き続き、患者の発生状況や RVA の遺伝子型の動向を把握することは重要であると考える。</p>